

キャベツ黒腐病情報第1号

令和6年11月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

強風雨によるキャベツ黒腐病の発生に注意！

1 発生状況

10月下旬に県内20ほ場で行った巡回調査において、キャベツ黒腐病の発病株率は平年並でした。しかし、黒腐病は降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができると、急増する恐れがあります。名古屋地方気象台11月1日発表の天気予報では、**今週末に風を伴う降雨が予想されています。この時期としては気温も高く、黒腐病の発生に注意が必要です。降雨前後に予防のために銅剤等を散布しましょう。**

2 本病の生態等

- (1) 本病菌は根圏土壤中で生存し、雨滴で跳ね上げられ、傷や葉の縁の水孔から侵入し、導管を伝って広がります。病斑部の病原菌が風雨により飛散して、二次伝染します。
- (2) 本ほでは主に下葉から発生し、葉縁から中央に向かってV字形の黄色病斑(図1)を生じます。病斑が拡大すると病斑内の葉脈は褐色～紫褐色に変色します。葉身部の傷から病原菌が入ると、傷口を中心に同様の病斑を生じます。



図1 V字形の黄色病斑



図2 発病株の様子

3 防除対策

- (1) 降雨が予想される場合は、降雨前後に予防のために銅剤等を散布する。すでに発病が認められたほ場では、治療効果のある抗生物質剤等を含む薬剤を散布する(表)。
- (2) 害虫の食害痕も病原菌の侵入口となるため、害虫の防除も徹底する。
- (3) 中耕作業によって生じる傷口は病原菌の侵入口となるので、発生ほ場では中耕作業を控えるか、株際を避け、植物体をなるべく傷つけないよう注意する。中耕作業を行った場合は、速やかに薬剤を散布する。
- (4) 地下水位の高いほ場や排水不良のほ場では、排水対策を行い、過湿状態にならないようにする。

表 キャベツ黒腐病に対する主な防除薬剤

薬剤名	使用時期	使用回数	農薬の種類	FRACコード
キノンドーフロアブル	収穫14日前まで	3回以内	有機銅水和剤	M1
アグレプト水和剤	収穫14日前まで	2回以内	ストレプトマイシン水和剤	25
バリダシン液剤5	収穫7日前まで	5回以内	バリダマイシン液剤	U18
カスミンボルドー	収穫7日前まで	4回以内 ¹⁾	カスガマイシン・銅水和剤	24・M1
カセット水和剤	収穫7日前まで	3回以内 ¹⁾	オキシリニック酸・カスガマイシン水和剤	24・31
Zボルドー ²⁾	—	—	銅水和剤	M1

FRAC コードは殺菌剤の作用機構による分類を示す。

FRAC コードの詳細は、https://www.jcpa.or.jp/assets/file/labo/mechanism/code_pdf01_2023.pdfを参照。

農薬の散布に当たってはラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

1) カスミンボルドーとカセット水和剤は、同一成分（カスガマイシン）を含むため、両剤を合わせた使用回数は最大4回（カセット水和剤は3回以内）まで。

2) 結球期以降の散布は薬害を生じるおそれがあるので、結球初期までに散布する。